

しずおか 県民児協だより



第
52
号

題字／静岡県民生委員児童委員協議会顧問 天野隆玄 書

2026.9.1発行



もくじ

P2 会長挨拶

P3 県民児協活動レポート

P4 地域みんなで育てる、夏休み。
—— 子どもも、大人もつながる「寺子屋」

P6 連載「災害に備える民生委員活動」

P8 インフォメーション／編集後記

タイトル：マジカルコンサート♪

作者：ねこペインター ひろせりんこ（富士市）

2010年生まれ。幼いころに大切な猫との別れを経験し、その想いをきっかけに猫を描き始める。心で感じた世界を「ねこ」という存在を通して表現し、鮮やかな色彩と自由な線で作品を生み出している。

「マジカルコンサート♪」は、満月の日に開かれる魔法のコンサート。ステッキでピアノの鍵盤をたたくとシャボン玉が生まれ、弾けるたびに優しい音楽が響き渡ります。

会長挨拶



老人は正しい…（見過ごす私） 不甲斐なし

静岡県民生委員児童委員協議会

会長 杉山 茂（菊川市）

白髪の老人

「荷物を網棚にあげましょうか」

初老の婦人

「パソコンが入っているので…」

老人は、（困惑の表情を浮かべ、バツが悪そうにそっとその場を離れ、前に移動した）時々チラッ、チラッと婦人に目を遣りながら……。

理事会を終えて、静岡駅では島田止まりの電車を見送り、列の先頭に並んで20分待った。16時00分発、下り浜松行4両の電車が到着すると、急いで初老の婦人の後ろの席に座った。車内はかなり混雑し、立っている乗客が大勢いた。婦人は、静岡よりも東の駅から乗車したのであろう。帽子を目深にかぶり、実際にどっかりと座っていた。

白髪の老人が声をかけた時、私は思った。たとえパソコン

コンが入っていても、車内は

混んでいるのだから、婦人は、

『すいません。そっとおねが

いします』とか、『PCのバッ

グは膝の上に置くから、他の

バッグをお願いします』が、

常識だと思うが……。

もちろん、老人はバッグを網棚にあげて座りたかったに違いない。（きつと疲れているのだろう）

車内アナウンスで、「座席に荷物は置かず、網棚に挙げるなどして、一人でも多くのお客様が座れますよう、お願いします」と、放送があるのだが、この日に限ってその放送はなかった。

私は、どうしようかと思った。

① 私が白髪の老人に席を譲ろうか

② 車掌さんへこの状況を伝えようか

③ 私も白髪の老人に賛成して、婦人へ一言いおうか

しかし、天邪鬼な私は、こ

の場を見過ごし、時間だけが

過ぎていった。（不甲斐なく、

反省……）

やがて、老人は焼津駅で下車した。

藤枝駅を通過した時、目を上げると『駅 車内のマナーをしっかりと守ろう』の中吊り広告が目飛び込んだ。

『座席を広く取らず 国を取るこそ 海道一の弓取りぞ』 今川義元

婦人はこれが目に入ったかどうか？

心苦しさを感じてはいないのか？

私は最寄りの菊川駅で席を立ち、婦人の左座席を見ると、大小のバッグが2つ鎮座していた。

民生児童委員でありながら、言葉を発せなかった自分の不甲斐なさを反省しつつ、電車を降りました。

令和8年度総会を開催しました

令和8年5月25日（月）に、県民児協総会を開催しました。当日は133名の法定地区会長にご出席いただきました。

単位民児協会長として長年にわたり活動に貢献された方々への会長表彰を行い、代表として杉山会長が受領されました。

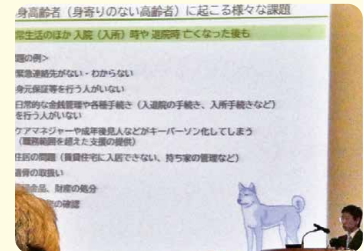
また、県福祉長寿政策課をお招きし、「単身高齢者への対応について」をテーマに行政説明をいただきました。単身高齢者を取り巻く問題を学ぶとともに、日常的なつながりをつくり、変化に気づき、専門機関へつなぐという民生委員活動の重要性について再確認する貴重な機会となりました。

議事では、令和7年度の事業報告及び収支決算、

令和8年度の事業計画及び収支予算を報告し、賛成多数により承認されました。



▲会長表彰授与の様子



▲県福祉長寿政策課による行政説明

令和8年度第1回主任児童委員連絡会を開催しました

県民児協では、主任児童委員の相互の連絡提携、資質の向上と活動の推進を目的として、令和7年度に主任児童委員連絡会を新設しました。連絡会では、子どもや子育て家庭を取り巻く課題に対し、専門的・総合的な視点での意見交換をとおして、主任児童委員としての資質向上や活動の充実に取り組みます。

令和8年6月29日（月）に、令和8年度第1回主任児童委員連絡会を開催しました。各市町における主任児童委員活動の工夫や課題、地域の状況などについて意見交換を行うなかで、学校との連携の難しさや、仕事を抱えながら主任児童委員活動にあたる委員への配慮など共通の課題が見えてきました。今後、県域での活動環境の整備について検討してまいります。



鈴木康友県知事を訪問しました

令和8年7月13日（月）、正副会長が鈴木康友県知事を表敬訪問し、一斉改選に伴う新体制及び本会の活動方針をご報告しました。

懇談では、民生委員児童委員のなりて確保を重点課題として位置づけ、次期改選に向けた取組を進めていくことを説明しました。これに対し、鈴木知事からは、「しっかり支援していきたい」と力強いお言葉をいただきました。

鈴木知事からは、民生委員児童委員に対する温かい激励の言葉をいただくとともに、高齢者世帯の増加や子どもを取り巻く環境の複雑化により、民生委員児童委員の役割がますます必要になるとして、今後の活躍への期待が寄せられました。





特集



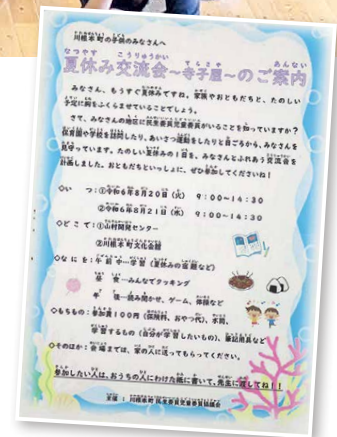
地域みんなで育てる、夏休み。

—— 子どもも、大人もつながる「寺子屋」



夏休み中の子どもたちに、安心して過ごせる居場所を ——。

川根本町民生委員児童委員協議会では、20年以上前から「寺子屋」を開催し、学習支援やレクリエーションを通じて、子どもたちの交流を育んできました。子どもだけでなく、地域や民生委員・児童委員同士のつながりも育む寺子屋。今回は、活動を支える3人に、その魅力や長く続けるための工夫を伺いました。



一番の目的は、子ども同士の交流です。学年を超えて関わることで、高学年の子が低学年の子に勉強を教えたり、お姉

山下委員

Q どんなことを大切にしていますか。

寺子屋は、中川根地区の主任児童委員を中心に、20年以上前から続いている取り組みです。当時から「子どもたちのために何かできないか」という思いが強く、地域ぐるみで子どもを見守る活動として始まりました。その思いが受け継がれ、今も多くの民生委員・児童委員の協力で続いています。

中村会長

Q 寺子屋を始めたきっかけを教えてください。

子どもたちのために、何かできないか。



川根本町民生委員児童委員協議会 会長
中村 裕平さん

地域の福祉活動全般を統括し、20年以上続く「寺子屋」の運営にも携わっている。



児童福祉部会長・主任児童委員
山下 登志子さん

元体育教師。寺子屋では運動プログラムを担当。子どもたちの交流や学校との連携に取り組んでいる。

大人が楽しいと、 子どもも楽しい。

さん、お兄さん役になったりする。そんな心の交流が自然と生まれています。もう一つ大切なのが、民生委員・児童委員同士の交流です。委員は3年ごとに改選があるため、顔は知っていても、じっくり話したことがない人も少なくありません。寺子屋は、委員同士が一緒に活動しながら信頼関係を築く貴重な機会にもなっています。

Q やりがいを感じるのは
どんなときですか。

駒井委員

やっぱり子どもたちの笑顔ですね。私は保育士をしていたので、地域の子どもたちの成長を見られることが本当にうれしいんです。「こんなこともできるようになったんだね」と感じる瞬間がたくさんあります。大人が楽し



んでいると、子どもも自然と笑顔になる。私自身も毎年楽しみに参加しています。

山下委員

ほかの活動先で寺子屋に参加した子どもたちから、「山下さん、今年も行くと」と声を掛けてもらうことがあります。毎年顔を合わせることで子どもたちとの距離も縮まり、保護者の方にも安心していただけていると感じます。

Q 保護者や子どもたちからは、
どんな反応がありますか。

山下委員

保護者の皆さんは仕事をされている方も多く、「もっと長時間やってほしい」という声をいただくこともあります。家に帰ると、「今日は何をしたの?」「楽しかった?」と親子の会話が弾むそうです。「去年のお兄さんが今年も来てくれた」「ゲームが楽しかった」「ま参加したい」と、子どもたちも嬉し

そうに話してくれると聞いています。

駒井委員

保護者の方からも、「寺子屋があると子どもとの会話が增える」「楽しそうに帰ってくる姿を見るのがうれしい」という声をいただきます。子どもだけでなく、家庭にも笑顔が広がっていることを実感しています。



活動は数を増やすことより、 中身を充実させる。

Q 寺子屋を続けるために
大切なことは何でしょうか。

中村会長

最初から完璧を目指さないことです。学年も年齢もさまざまな子どもたちを一度に見ようとすると負担が大きくなります。地域の実情に合わせて、無理のない形で始めることが大切だと思います。

山下委員

活動は数を増やすことより、中身を



充実させることが大切です。そして何より、民生委員・児童委員同士が仲良くなること。お互いに「手伝うよ」と声を掛け合える関係があるからこそ、長く続けることができます。

駒井委員

地域にはそれぞれ特色があります。寺子屋という形にこだわる必要はありません。その地域に合った活動を見つけ、一つひとつ丁寧に育てていくことが大切だと思います。子どもたちの笑顔を見ると、「また来年もやろう」という気持ちが自然と湧いてくるんです。



児童福祉部副会長・主任児童委員
駒井 宗子さん

元保育士。子どもたちとのふれあいを大切に、寺子屋や子育て支援、託児ボランティアにも携わる。

災害に備える民生委員活動



災害に備えるための活動 西伊豆町民生委員児童委員協議会

沿岸地域に集落の点在する西伊豆町において『災害』と聞いてまず連想するのは地震・津波です。加えて大雨や土砂災害も想定されます。人口約6400名、高齢化率50%を超えるこの町で大規模災害が発生した場合、民生児童委員としてどのようなことができるのでしょうか。

令和3年に避難行動要支援者の「個別避難計画」を作成するよう法律が改正され、本町においても新たに令和5年から対象者の見直しと計画の作成に着手しているところです。令和8年3月末現在、対象者の53%である157名から個別避難計画作成に対する同意が得られ、避難行動要支援者同意者名簿が担当地区の民生児童委員にも配布されました。

今年度からは、自主防災会長でもある区長、福祉専門職員、行政職員及び民生児童委員が、要支援者宅を訪問して個別避難計画作成のための



R8.6.15下月原訪問（西伊豆町）

聞き取りを行っています。地域の顔見知りである民生児童委員も同席することで、要支援者が日常の困りごとや避難時の不安等を話しやすいくなり、有意義な面談になっていると思われまふ。互いの顔が見える関係性を大切にしながら、地道な作業を重ねています。

また、民児協では防災研修会を実施して、避難における留意事項や避難場所等の情報を共有しています。さらに、仮想避難所体験等の実施も計画しており、具体的な場面を想定した訓練を通して民生児童委員の実

践力も高めていけたらと考えます。

災害が起きた場合どのような困難が待ち受けているのか？想像することとは難しいですが、積み重ねてきた地域の皆様との関わりを活かして、困りごとに対応し行政等に繋げていきたいと思っています。

地域防災と民生委員活動

三島市北上地区民生委員
児童委員協議会

三島市北上地区民児協の芙蓉台は、およそ2000人の住民の約半数が65歳以上と高齢化が進む地域です。

芙蓉台は水害や津波被害は想定されていないものの、南海トラフ地震や富士山噴火では甚大な被害が予想されています。これに備えて自治会ではそれまでの自主防災組織を見直し、委員が1年毎ではなく複数年に渡り係を担当する防災委員会を、平成31年に立ち上げました。民生委員は避難行動要支援者調査のための訪問や日常の見守りを通して要支援者と繋がりがあり、発災時に要支援者の支援がより迅速におこなえると考

えられることから、芙蓉台防災委員会に加わるようになりました。

芙蓉台防災委員会は避難訓練の計画・準備・運営の他、市民トリアーラインの被害想定と復旧対応についての研修等を実施してきました。民生委員は防災委員会の中で衛生救護と避難所における保健衛生・要配慮者支援を担当しており、避難訓練時には簡易トイレの使用法説明や、在宅避難に向けた水・食料・トイレ等の備蓄品の展示と紹介をしています。また発災時の安否確認に重要な黄色



避難訓練（三島市）

いハンカチの掲示を高齢者に呼び掛ける活動などをおこなっています。

今、芙蓉台防災委員会が最も力を入れているのは「組内の助け合い」活動です。隣近所のみんなが一緒に活動することで顔の見える関係を築き、発災時には誰もが躊躇なく助けたり助けられたりできる共助を目指す取り組みです。そこでは、聴く・見守る・つなぐという民生委員の日常の活動が重要になります。防災をより深く学び地域に活かすことも、民生委員の重要な役割です。

世帯家族調べによる活動 焼津市民生委員児童委員協議会

近年、地震や台風、豪雨等の災害が相次いで発生し、支援を必要とする人々の避難行動や避難生活をいかに支えるかが課題となっており、災害時に民生委員・児童委員としてのどのような行動ができるのか、その課題と向き合っております。

民生委員・児童委員の災害時における活動は、「民生委員・児童委員活動の十か条」において、災害時において自らの家族の安全を最優先としつつ無理のない範囲で支援活動に協力すること、平常時から地域における要支援者支援体制の構築に協力することが求められております。

世帯家族調べ（焼津市）

焼津市では、毎年、市内の全世帯を対象とした「世帯家族調べ」を実施しており、民生委員・児童委員が調査票の集計・仕分け作業を行い、一人暮らしの高齢者や障がい者等の要支援者の確認をしております。

この調査票は、市、自主防災会、民生委員・児童委員で共有され、平常時の見守りや災害時の支援体制づくりに活用されております。しかし、この調査票の提出は任意であるため、全ての世帯から提出されるわけではなく、災害時において支援の必要な住民の状況を完全に把握できていないことが課題です。

こうしたことから、平常時から民生委員・児童委員による見守りや地域の関わりを通じて、地域全体のつながりを深めるとともに、要支援者を地域で支える意識の向上を図り、

災害時に誰一人取り残さない、住民同士で支え合える地域づくりに努めていきたいと考えております。

「ひなんさんぽ」について 避難訓練から 湖西市東部地区民生委員 児童委員協議会

湖西市では、南海トラフ巨大地震が発生した場合、最大震度7の揺れが想定されており、沿岸部では最大15メートルの津波の到達が予測されています。また、高齢化率が約30%に達している本市では、自力避難が困難な要支援者の安全確保が喫緊の課題です。

湖西市では、個別避難計画作成モデル事業として日常の散歩感覚で参加できるように「ひなんさんぽ」を令和6年度から地区を決め取り組んでいます。令和6年度は北部（入出地区、岡崎地区）、令和7年度は東部（新居地区）、今年度は南部（鷺津地区と白須賀地区）で実施予定です。

「ひなんさんぽ」は、要支援者と地域の方が自宅から避難場所まで一緒に歩き移動時間や避難経路を確認する活動です。車いすの方は段差の有無や坂道の勾配を確認し、足の不自由な方は階段の昇降可否を検証します。これにより、机上の計画では見えない課題が浮き彫りになりました。



ひなんさんぽ（湖西市）

具体的な反省点として車いす利用者が避難できる施設が限られていること、要支援者のリストが最新でないケースがあること、階段でのサポート方法が確立されていないことがあげられます。これらの課題を一つずつ解決しながら、経験を重ねることが大切です。

「ひなんさんぽ」を実施するにあたり要支援者の避難を自治会、自主防災会、民生委員と地域住民が連携してサポートできたことから、改めて要支援者の避難に地域の共助の大切さを感じる良い機会となりました。

しかし、役員の年度代わりには「避難行動要支援者」、「ひなんさんぽ」の内容が引き継がれないこともあり、民生委員の役割として、この内容を地域の役員や住民に周知徹底することが求められています。

INFORMATION

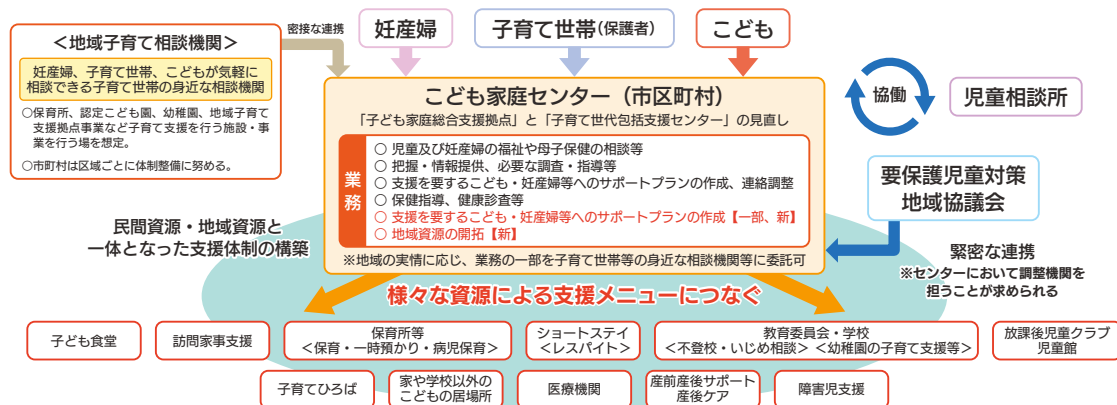
知っていますか？こども家庭センター



こども家庭センターは、母子保健と児童福祉の一体的な相談支援による切れ目のない包括的な支援を目的として設置されています。妊産婦・子育て家庭・こどもからの相談に応じるとともに、対象者と共にニーズ・目標・支援内容等を整理し、各家庭の状況に応じた支援を継続的に実施・調整する役割を担います。

また、関係機関の連携強化、地域課題に応じた支援・サービスの構築など、地域における支援体制の整備も役割のひとつです。

静岡県内では、32の市町で設置されています（令和8年6月1日現在）。地域の見守り活動における重要なパートナーとして、日ごろからの関係づくりが求められます。



民生委員児童委員の皆さまへのメッセージ

こども家庭センターは地域の全ての妊産婦・子育て家庭に対する支援業務を担うことから、地域で母子保健や子育て支援に携わっている関係者との連携が欠かせません。しかしながら、こども家庭センターは行政機関であることや、多くが市役所と併設されていることが、利用者にとっては心理的なハードルになっている場合があります。

だからこそ、地域で日頃から関わりを持つ民生委員・児童委員の皆さまの力が大変重要です。支援が必要な方とこども家庭センターの間に立っていただき、地域の家庭から気軽に相談ができるような橋渡し役を担っていただきたいと考えています。皆さまの身近な存在としての役割が、子どもや家庭の安心につながります。

皆さまのご協力によって、より多くの家庭が安心して支援を受けられる地域づくりが進んでいきます。どうぞよろしくお願いいたします。（静岡県こども家庭課）

編集後記



令和七年十二月に一斉改選がありもう少しで一年が経過しようとしています。委員の皆様は、地域の見守り活動をはじめ、地域の方々のつながりを大切に活動に取り組みられていると思います。とりわけ新任委員の皆様には初めての経験で戸惑いもあり不安な気持ちを持たれている方もおられるでしょう。

各地区民児協では、新任委員の方が安心して活動に取り組めるように様々な工夫をしていることと、私所属する地区民児協でも役員と新任委員との相談タイムを設定したり、定例会の後半に小グループで自由に話し合えるサロンの時間を設けたりして新任委員の方の負担を少しでも減らす工夫をしています。

その中で、「地域で一人暮らしの高齢者の方を初めて訪問するとき不安を感じる。一緒に訪問してくれる民生委員がいると安心できるのだ。」という意見が出されました。確かに女性（男性）の民生委員が一人暮らしの女性（男性）の住民の所に初めて行く際には抵抗があると感じる時があります。その解決策としてチーム訪問（近隣の民生委員同士で男女混合の相談チームをつくり対応する）を提案しました。

気軽に話し合うことで、いろいろな困り事を自由に言うことができる地区民児協になっていくといいなと思っています。

袋井市 原田 真二



発行日：令和8年9月1日

編集発行：静岡県民生委員児童委員協議会 〒420-8670 静岡市葵区駿府町1-70 静岡県社会福祉協議会内

問合せ：☎ 054-254-5224 FAX 054-251-7508